



北海道喜茂別町 保健師募集案内

私たちと一緒に、町民みんなの
“元気”を“応援”しませんか？

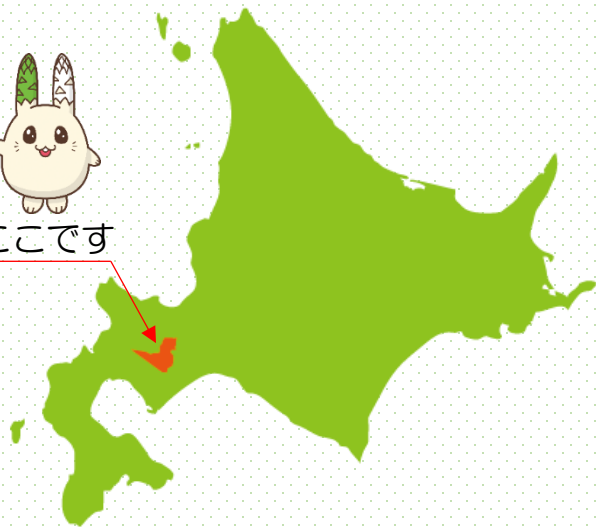


喜茂別町役場

喜茂別町ってどんなところ？



ここです



北海道の南西部、後志振興局管内の東南にあって、札幌市を中心とする道央経済圏の南西部に位置しています。また、道内主要幹線である2本の国道が交差する町で、道央兼主要都市に90分程度と恵まれた立地条件にあります。

また、周囲には、ニセコやルスツの国際リゾートが立地しており、多くの観光客が訪れています。

気候は、羊蹄山・尻別岳をはじめ周囲に山岳が多いため、日照時間が短く、平均気温は5.7℃で昼夜の寒暖差も大きいところです。降雪量も多く特別豪雪地帯に指定されています。

面積は、189.41㎢で、うち、森林が占める割合は約80%と山林・原野が占めています。

人口は、1,888人で高齢化率は38.40%となっています。（令和7年4月末現在）

基幹産業は農業で、アスパラガスや馬鈴薯が特産です。特にアスパラガスは、日本で初めて本格的な栽培が開始され、「アスパラガス栽培発祥の地」として広く知られています。

甘みの強いグリーンアスパラだけでなく、近年は貴重な生食用ホワイトアスパラも人気があります。また、ブロッコリー、とうもろこし、トマト、メロンなどの栽培も盛んで、春から秋まで旬の野菜を堪能することができます。

洞爺・ルスツ・ニセコエリアの玄関口にある中山峠には、「道の駅 望羊中山」があり、名物「あげいも」は訪れたことがある方は一度は口にすることがある人気の逸品です。

国道を走行していると 羊蹄山と尻別岳が同じ大きさ・形に見えるポイントもあり、「双子の羊蹄」として親しまれており、自然景観が豊かな喜茂別町を代表する景観は訪れる方の目を楽しませています。

喜茂別町はスポーツも盛んで、剣道、クロスカントリースキー、野球、パークゴルフなど、老若男女問わずスポーツを楽しんでいます。特に剣道では、世界チャンピオンを輩出したり、クロスカントリースキーでは、全国高校チャンピオンを輩出するなど、町の伝統的な競技になっています。

近年では、競技人口が増加し注目されている女子野球。道内唯一の女子硬式野球クラブチームのホーネットスレディースと町が連携協定を結び、「女子野球タウン」の認定を受け、女子野球を通じた地域活性化の取り組みも進めています。



喜茂別町の保健師の主な仕事



＜母子保健＞

喜茂別町は、年間出生数が10人程度です。妊娠届の時からおつきあいが始まります。

出産後は、訪問、健診、子育て支援センター、保育所、小学校、中学校、高校と、関係機関と重層的に必要な支援につなげていきます。

子どもが少ない町ですが、それだけに、家庭の全体像がつかみやすいという特徴があります。



＜成人保健・精神保健＞

成人保健では、生活習慣病やがんの予防・早期発見・早期治療を目的に、健康診断やがん検診を実施しています。健（検）診結果に基づき、必要な方には病院受診を勧めたり、生活習慣の改善に向けた保健指導や栄養指導を行ったりすることのほか、健（検）診の受診率向上に向けて、広報活動や個別のお知らせを通じて受診を呼びかけています。

また、地域内での活動としては、町内の自主組織「保健推進委員会」と連携し、町民の健康づくりにつながる情報発信や、健康イベントも積極的に行っています。

精神保健の分野では、中学校での思春期教室の開催や、心の悩みに対する相談対応など、心の健康を支える取り組みも進めています。



＜福祉と地域包括支援センター＞

喜茂別町では、福祉係の中に地域包括支援センターを置いています。

地域包括支援センターは高齢者に関する総合相談窓口として様々なサポートを行っており、高齢化に伴いニーズが増加しています。

福祉分野でのソーシャルワークと保健師が担う活動は近接しています。保健師は、健康面、医療からの視点が特徴的ですが、母子から高齢者、介護と幅広い範囲の個別支援と地域への施策としてのアプローチ等業務は多岐に渡ります。



＜関係機関との調整・連携・協働＞

支援を必要とする家庭は、複合的な問題を抱えている場合が多くあります。

それに対して、各担当者は、縦割りではなく、ネットワークを広げ、どんな支援ができるのか考え、協働していくことが、日々求められています。



勤務場所について

役場庁舎から200m離れたところに、健康増進センター（スマイルセンター）があります。センター内は、1階に町立クリニック、2階に役場元気応援課、トレーニング室、3階に図書室、自主学習室があります。



2階では、健診、乳児相談、離乳食教室、妊娠届時の面談、保健推進委員会会議、一般介護予防事業、ケース検討会議、運動…とさまざまな保健・福祉等に関する場として使われています。元気応援課の事務所もこのフロアにあります。

1階に町立クリニックがあることで、個別支援している方についての連携、健診、予防接種等、連絡がとりやすいというメリットがあります。

また、クリニックに来院した方が、受診後2階に来所して相談する場合もあります。

健康増進センター2階にはトレーニング室があります。介護予防事業など、町の事業として使用する他に、一般開放しており、町民の健康維持に活用いただいています。



センター内から西方に羊蹄山が見え、自然が見せる表情に日々癒やされています。



道路をはさんで向かい側のふれあい福祉センターです。社会福祉協議会の事務所があり、デイサービス、入浴、ウォーキングのグループ活動等、様々な活動が行われています。



先輩保健師からのメッセージ



元気応援課健康づくり係保健師の今橋文代です。

自分の力量不足に意気消沈することもあります。この町の町民のために役場保健師として働けていることに、日々、感謝の気持ちとやりがいを感じています。喜茂別町はどんな町なのか、ぜひ、うちの町で働き、感じて欲しいなと思います。“自分の町”という感覚を体感して欲しいなと思います。どの仕事も、人の役に立つことをしていると思いますが、保健師という仕事は、人と関わる仕事です。人の健康を支援する仕事です。元気を応援する仕事とも言えます。

人の顔が浮かび、つながりが見え、ヒストリーがわかる、喜茂別町は、そんな仕事ができる町だと思います。

一緒に働いてくださる方、お待ちしております!!



元気応援課健康づくり係保健師の伊藤菜穂子です。

住民の顔が見える小さな町で働きたいと、札幌市の南隣りなのに町の名前も知らなかった喜茂別町にきて〇十年たちました。

ご家族3世代、中には4世代の方々の健康に携わることができるのは、保健師という仕事ならではのようです。近隣の町村も小規模で保健師さんたちとも情報交換など、助け合っています。

喜茂別町は食べ物もおいしいし、交通アクセスもよく、二セコや洞爺湖は40分、札幌市や千歳空港も90分ほどで行けて便利です。

ぜひ、喜茂別に来て下さい。待っています。



元気応援課福祉係保健師の齊藤麻実です。

福祉係は、母子・児童福祉、障がい児・者支援、高齢者支援・介護（予防）など、子どもから高齢者の方まで幅広い世代の、福祉・医療・介護に関することを担当しています。仕事が多岐にわたることから、今さらではありますが学生時代にもっと学んでおくべきだったと反省しています。

保健師は保健分野の専門職ですが、小さな町の保健師は保健に限らず多面的に、町民の健康と生活を支援することが求められます。大変ではありますが、やりがいがあります。



元気応援課健康づくり係保健師の桑島大樹です。

大きな自治体の病院で看護師として働いたのち、培った知識や経験を地域にも生かしたいと考え、高齢化や少子化が進む中で幅広い支援が求められる喜茂別町へ転職しました。学ぶことは多いですが、やりがいがあり、先輩方の丁寧な指導にも感謝しています。

皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



奨学金制度について

喜茂別町では、保健師奨学資金貸与制度を設けています。

○貸付金額 60万円以内

○貸付日 採用内定以降、令和8年3月31日までに貸付

○償還免除 本町の保健師として3年以上在職した場合。
但し、3年に達する前に職に従事できなくなった
場合は在職期間に応じて返済。



勤務条件等について

○勤務時間 8:45~17:30（週38時間45分）

○給与 職員の給与に関する条例に基づき支給
初任給 225,600円（1級29号俸）～
前歴換算有り

○諸手当等 昇給 年1回
賞与 年2回（令和7年度見込 4.60月）
手当 扶養、住居、通勤、時間外手当、赴任旅費 等

○休日・休暇 完全週休2日制、祝祭日、年末年始
有給休暇20日（4月採用の場合15日・繰越あり）など

喜茂別町の職員の状況

○職員の平均年齢 43.75歳

○職員の平均給与月額 331,783円

○男女比率 69%：31%

（令和7年4月末時点）



【お問い合わせ】

喜茂別町元気応援課

〒044-0201 北海道虻田郡喜茂別町字喜茂別13番地の3
（喜茂別町健康増進センター2F）

電話 0136-55-5831

E-mail kenkou@town.kimobetsu.lg.jp

URL <https://www.town.kimobetsu.hokkaido.jp>



喜茂別町公式キャラクター「ウサパラ」



町公式HP



保健師募集